

◆頼り過ぎは危険！？ AIのリスク◆

さて、あなたの会社では業務にAIを活用していますか？

- ◆ _____ ◆
頼り過ぎは危険！？ AIのリスク
- ◆ _____ ◆

現在、ChatGPTやGeminiなどの対話型AIはさまざまな業界で活用されています。AIを使うと業務の時短、効率化が実現できるため重宝されていますが、一方で数々のリスクが潜んでいることも事実です。最近では中小企業でも導入されていますが、利用するにあたり重要なことは以下の三つです。

- ①AIの回答を鵜呑みにしない
- ②個人情報、社外秘の機密情報を入力しない
- ③AIの作成物が著作権を侵害していないか確認する

まず①について、AIは多くの情報を基に提案してくれますが、その回答は必ずしも正しいわけではありません。そのため、回答を鵜呑みにするのは非常に危険です。間違った情報を活用、公開しないためにも情報源は必ず自分で調べたいものです。

②は、機密情報の漏洩に繋がります。ChatGPTに入力した情報は、OpenAI社の学習材料としてクラウド上で保管されるといわれています。そのため、個人情報や機密情報を入力すると情報流出のリスクがあるのです。

③について、AIが提案するデータは、著作権者の許可なく活用されていることもあります。そのため、AIが出したデザインやテキストをそのまま公開したり販売したりすると、著作権侵害となる恐れがあります。実際、AIに関するトラブルは世界中で起こっており、訴訟問題に発展することも珍しくありません。ルールを知らないまま手を出してしまうと、会社に大きな損害を与えてしまいます。

では、私たちはこれからどのようにAIと付き合いがいけばよいのでしょうか。ちなみに、すでにAIを導入している会社は、以下のようなことを実行しているそうです。

- 業務における使用範囲や データ取り扱いルールを決定、社内に周知する
- 入力した内容をAIに記録されないようオプトアウト設定をする
※気になる方は「ChatGPT オプトアウト」で検索してみてください。
- AIサービスは進化のスピードが早いので最新動向を追うチームをつくる など。

AIは、良くも悪くも会社に大きな影響を与えます。仕組みを知って正しく活用すれば、生産性が向上し、会社にとってプラスになるのでうまく取り入れたいですね。これから導入を検討している会社は、ぜひ自社のAI活用ルールをつくってみてはいかがでしょうか。

□ ■ □ _____
編集後記

_____ □ ■ □

今回は「AIのリスク」をテーマにお伝えしました。AIは特徴をつかみ、うまく使いこなせば会社の発展に役立ちます。当社もまずは社内ルールをつくることから始めようと思いました。

最後までお読みいただきましてありがとうございます。ご不明な点がございましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

